

名称 ジンコウ (1)

他名等 沈香

部位等 材、樹脂 (沈香<ジンコウ>)

備考

学名 (科名) *Aquilqria agallocha* Roxb. (Thymelaeaceae) ジンチョウゲ科

其原植物和名等 ジンコウ

医薬品として使用実態があるか Yes (局方、局外生規には収載されていないが、漢方処方に用いられている) 鎮静、解毒、健胃薬として調剤に利用されるが、一般には薬用よりむしろ高級線香や合せ香などの香料として用いられることが多い。

配合処方：丁香柿蒂湯 (1 処方)

毒性データ (LD50 等) なし

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

benzylacetone, *p*-methoxybenzylacetone, hydrocinnamic acid, *p*-methoxycinnamic acid

主要な生理活性

精油は鎮静作用があるといわれ、沈香の煎剤はヒト結核菌に対し、抑制作用がある。漢方処方では他の生薬とともに用い、体を温め、痛みを止めるといわれている。

以下 *Aquilaria* spp.として記載

Flindersiachromone: Contributes to the odour of agarwood when it is burned as incense. Its resinous wood is used as an aphrodisiac, diuretic and stimulant, and wood decoctions are used in Chinese herbal medicine.

2-(4-Methoxyphenethyl)chromone: Contributes to the odour of agarwood when it is burned as incense. Its resinous wood is used as an aphrodisiac, diuretic and stimulant, and wood decoctions are used in Chinese herbal medicine.

重要文献

1) 新訂牧野和漢薬草大図鑑：323

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook: 無記載

The Complete German Commission E Monographs: 無記載

評価：B

アルカロイド等の成分は含有されておらず、局方および局外生規にも収載されていないが、漢方処方に配合されており、食経験がないため専ら医薬品としておくことが望ましい。

名称 ジンコウ (2)

他名等 沈香

部位等 樹脂 (沈香<ジンコウ>)

備考

学名 (科名) *Aquilaria sinensis* (Lour.) Gilg. (Thymelaeaceae) ジンチョウゲ科

基原植物和名等 アキラリア・シネンシス

医薬品としての使用実態があるか Yes (局方、局外生規には収載されていないが、漢方処方に用いられている) 駆お血、通経、鎮痛に、沈香 1 日量 1.6~3.2 g を煎じて服用する。

配合処方：丁香柿蒂湯 (1 処方)

毒性データ (LD50 等) なし

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

8-chloro-5,6,7,8-tetrahydro-5,6,7-trihydroxy-2-(2-phenylethyl)chromone,

5,6-dihydroxy-2-(2-phenylethyl)chromone, sinenofuranol, sinenofuranaol, baimuxinol, isobaimuxinol, baimuxinic acid

主要な生理活性

薬理作用およびその効果に関する詳細は不明だが、民間的に駆お血、抗炎症、通経、鎮痛薬として産後のお阻、閉経、月経不順、喘息、嘔吐、腫れ物、打撲傷などに用いられるが、現在では薬用とするより染料としての用途が多い。

重要文献

1) 新訂牧野和漢薬草大図鑑：323

2) Phytochemical dictionary 2nd Edition

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook: 無記載

The Complete German Commission E Monographs: 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか 含まない

評価：B

アルカロイド等の成分は含有されておらず、局方および局外生規にも収載されていないが、漢方処方に配合されており、食経験がないため専ら医薬品としておくことが望ましい。

名称 スイサイ

他名等 睡菜、三櫛、bogbean leaf

部位等 葉または全草（睡采<スイサイ>）

備考

学名（科名） *Menyanthes trifoliata* L. (Gentianaceae) リンドウ科

其原植物和名等 ミツガシワ

医薬品として使用実態があるか Yes Com E

睡采葉 1 日量 6~12g に 600ml の水を加え、半量になるまで煎じ詰めたものを 1 日 3 回、食前 30 分に服用する。

毒性データ（LD50 等） なし

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

含む場合その化合物は gentianine, gentianidine, gentiatibetine (pyridine type)

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

loganin, secologanin, quercetin, foliamenthin, dihydrofoliamenthin, menthiafolin

主要な生理活性

煎液は苦味健胃作用と同時に弱い瀉下作用があり、大量では催吐作用がみられる。

重要文献

- 1) H. T. Liang *et al.*: *Yaouxue Xuebao*, **11**, 412 (1964)
- 2) F. Ruko *et al.*: *Pol. J. Chem.*, **41**, 567 (1967)
- 2) 新訂牧野和漢薬草大図鑑：410

その他注意すべき点

ミツガシワは根茎も薬用にされ、咳止め、腫れ物、高血圧などに乾燥した根茎（睡采根）9~15g を水で煎じて服用する。本植物が日本で生薬として扱われるのは江戸末期のことである。

Botanical Safety Handbook: class 2d (Contraindicated with diarrhea, dysentery, and colitis) P. 76

The Complete German Commission E Monographs: P. 93

評価：A

毒性データは認められないが、アルカロイド成分を含有しているため安全性に十分な配慮が必要であり、また Commission E に収載されヨーロッパでは医薬品原料であることから専ら医薬品と考えられる。

名称 スカルキャップ

他名等 mad dog weed

部位等 根

備考 根以外は「非医」

学名 (科名) *Scutellaria laterifolia* L. (Labiatae) シソ科

其原植物和名等 スクテラリア・ラテリフォリア

医薬品として使用実態があるか No

毒性データ (LD50 等) なし

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

scutelaterin A-C (diterpenoid)

主要な生理活性

Scullcap is tonic, nervine, and antispasmodic. This is one of those valuable agents which a certain class of physicians consider inert; yet it has proved especially useful in *chorea*, *convulsions*, *tremors*, *intermittent fever*, *neuralgia*, and many nervous affections. In *delirium tremens*, an infusion drank freely will soon produce a calm sleep. In *intermittents* it may be beneficially combined with lycopus. Where teething has impaired the health of children, an infusion maybe given with advantage. In all cases of *nervous excitability*, *restlessness*, or *wakefulness*, attending or following acute or chronic diseases, from physical or mental overwork, or from other causes, it may be drank freely with every expectation of beneficial results. The warm infusion has a tendency to keep the skin moist; the cold has a tonic influence, and either may be drank freely. When its soothing effects have ceased, it does not leave an excitable, irritable condition of the system, as is the case with some other nervines. Scullcap has been extolled as a remedy in *hydrophobia*, but this is still a matter of uncertainty. That it influences the cerebro-spinal centers, controlling nervous irritation there can be no doubt and this fact is well illustrated by its control over *functional cardiac disorders*, due to purely nervous causes, with or without hysterical manifestations, and exhibiting intermittency of pulse. Specific scutellaria well represents the plant. Half an ounce of the recently dried leaves or herb, to 1/2 pint of boiling water, will make a very strong infusion. Dose of specific scutellaria, 1 to 30 drops; of scutellarin, 1 to 5 grains; fluid extract, 1 to 60 drops.

重要文献

- 1) M. Bruno *et al.*: *Phytochemistry*, **48**, 687 (1998)
- 2) Henritte's herbal homepage (<http://www.ibiblio.org/herbmed/index.html>) provided by the public's library and digital archive, a collaboration of the Center for the Public Domain and The University of North Carolina - Chapel Hill.

その他注意すべき点

Reports of toxicity are due to adulteration of skullcap with germander (*Teucrium* spp.), which has been reported to cause hepatotoxicity.

Botanical Safety Handbook: class 1 (Herbs that can be safely consumed when used appropriately)

評価：C

我が国では使用実態がないが、毒性データを考察するための成分に関する報告も少なく、今後さらに含有成分に関する研究を行う必要があると考えられる。

名称 スズラン

他名等 lily-of-the valley、may-lily

部位等 根を含む全草（鈴蘭<スズラン>）

備考 根と根茎に毒成分が多い

学名（科名） *Convallaria majalis* L. (Liliaceae) ユリ科

其原植物和名等 ドイツスズラン

医薬品として使用実態があるか Yes Com E

毒性データ（LD50等） エキス: LDLo 208 ug/kg (guinea pig, iv), convallatoxin : LD50 (cat, ipr) 0.2 mg/kg

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

含む場合その化合物は 2-azetidinecarboxylic acid

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

neriantogenin, convallamaroside, convallamarogenin, canesceol, nigrescigenin, tholloside, canescein, convallatoxol, convalloside, convallatoxin, 2-azetidinecarboxylic acid

主要な生理活性

convallatoxinは強心配糖体で、強心、利尿作用があるのと同時に、ジギタリス類似でさらに強い心臓毒作用がある。convallosideには血液凝固作用があり、大量摂取により流涎、悪心、嘔吐、めまい、頭痛、心悸亢進などを起こし、心不全の状態になって死に至る。

L-Azetidine 2-carboxylic acid: Larvicide, microbial growth retardant, e.g., in *Escherichia coli*, and causes development aberrations in chick embryos. These effects are thought to be due to competitive inhibition of proline uptake and incorporation, with particular reference to collagen synthesis.

Convallamaroside: Strong haemolytic activity.

重要文献

1) 新訂牧野和漢薬草大図鑑：622

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook: class 3, P. 35

The Complete German Commission E Monographs: P. 162

評価：A

エキス: LDLo 208 ug/kg (guinea pig, iv), convallatoxin : LD50 (cat, ipr) 0.2 mg/kg およびアルカロイド成分を含有しているため安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。

名称 セイコウ

他名等 クソニンジン、バカニンジン、黄花蒿

部位等 帯果・帯花枝葉、全草（黄花蒿<オウカコウ>）

備考

学名（科名） *Artemisia annua* L. (Compositae) キク科

其原植物和名等 クソニンジン

医薬品として使用実態があるか Yes 中国薬典

毒性データ（LD50等） arteannuin: LD50 5576 mg/kg (rat, oral)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

含む場合その化合物は 6-amino-7,8-dihydro-2-hydroxypurine

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

artemisinic acid, annulide, iso annulide, arteannuin, arteannuin B, H, I, L, M, artemisiin, artemisinol

主要な生理活性

精油には皮膚を刺激する効果があり、数種の皮膚真菌の発育抑制作用が認められている。また健胃、解熱、止血作用などのほか、殺虫薬としても有効である。

重要文献

- 1) A. Shukla *et al.*: *J. Indian Che. Soc.*, 74, 59 (1997)
- 2) 新訂牧野和漢薬草大図鑑：534

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook: class 2b (not to be used during pregnancy)

評価：A

毒性データは不明だが、アルカロイド成分を含有しており、また Botanical safety Handbook において禁忌が報告されていることから安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。

名称 セイヨウサンザシヨウ

他名等 セイヨウサンザシ

部位等 葉

備考 果実は「非医」

学名 (科名) *Crataegus oxyacantha* L. em. Jacq. (Rosaceae) パラ科

其原植物和名等 セイヨウサンザシ

医薬品として使用実態があるか Yes Com E

毒性データ (LD50 等) エキス: LD50 250 mg/kg (rat, ip)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

cinnamtannin A1, vitexin-4'-O-rhamnoside

主要な生理活性

葉のエキスは強心薬に、果実は血圧降下および強心薬に用いる。

重要文献

1) 新訂牧野和漢薬草大図鑑 : 168

その他注意すべき点

中国ではサンザシ *C. cuneata* Sieb. et Zucc., ミサンザシ *C. pinnatifida* Bge. var. *major* N. E. Br., オオサンザシ *C. pinnatifida* Bge.などの果実をサンザシと称し、消化不良、赤痢の際の下痢などに用いる。セイヨウサンザシの園芸品には花の縁の赤いものがあり、*C. oxyacantha* L. var. *bicolor* Rehder という、オオサンザシの園芸品の var. *major* N. E. Br.は、生でもまたゼリーとしても食べられる。

Botanical Safety Handbook : class 1 (*Crataegus laevigata* (Poir.) DC., *C. monogyna* Jacq.)

The Complete German Commission E Monographs: 無記載 (*C. laevigata*, *C. monogyna* P. 142, P. 333)

評価 : E

我が国では医薬品としての使用実績が乏しく、含有成分等からも食薬区分の見直し対象と成り得ると考えられる。

名称 セイヨウトチノキ

他名等 マロニエ、horse chestnut seed

部位等 種子

備考 樹皮・葉・花・芽は「非医」、トチノキの種子は「非医」

学名(科名) *Aesculus hippocastanum* L. (Hippocastanaceae) トチノキ科

其原植物和名等 セイヨウトチノキ

医薬品として使用実態があるか Yes Com E

毒性データ (LD50 等) extract: LD50 990 mg/kg (po. mouse), 2150 mg/kg (po. rat), 1530 mg/kg (po. Rabbit), 130 mg/kg (po. dog)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

含む場合その化合物は

Aesculus hippocastanum antimicrobial protein 1, dicoumaroylspermidine, dicaffeoylspermidine

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

plastoquinone 4, 8, isoescigenin, hippocaesculin, escin derivatives, procyanidin A1, *Aesculus hippocastanum* antimicrobial protein 1, dicoumaroylspermidine, dicaffeoylspermidine

主要な生理活性

鎮痛作用、解熱作用、強壮作用がある。

重要文献

- 1) F. Fant *et al.*: *Proteins*, **37**, 388 (1999)
- 2) J. Deletang: *Ann. Tab., Sect. 2*, **11**, 123 (1974)
- 3) 新訂牧野和漢薬草大図鑑: 708

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook: 無記載

The Complete German Commission E Monographs: P. 148, P. 337, P. 393

評価: B

毒性データは低いがアルカロイド成分を含有しており、また医薬品としての使用実態があることから専ら医薬品とすることが望ましい。

名称 セイヨウヤドリギ

他名等 ソウキセイ、ヤドリギ、mistletoe herb

部位等 枝葉梢・茎・葉、茎・葉（桑寄生<ソウキセイ>）

備考

学名（科名） *Viscum album* L. (Viscaceae) ヤドリギ科

其原植物和名等 セイヨウヤドリギ

医薬品として使用実態があるか Yes Com E

乾燥した茎葉1日量5~10gに300mlの水を加え、半量になるまで煎じ詰め、3回に分けて服用する。

毒性データ (LD50 等) エキス: LD50 250 mg/kg (mouse, ip)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

含む場合その化合物は viscotoxin (peptide), viscumamide, kynurenine, 2,6-diamino-5-hydroxyhexanoic acid

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

viscumside A, viscotoxin, viscumamide, kynurenine

主要な生理活性

葉のエキス成分は中枢神経を麻痺させ、腸血管を拡張するほか、血圧降下作用、鎮痛作用もある。鎮痛、強壮薬として、リウマチ、腰痛、神経痛や産後の乳汁不足に用いられる。

Mistletoe lectins: Highly toxic with human erythrocytes without specificity to blood groups A, B, and O. Sugar specificity: lectin I, D-galactose, lectin II, D-galactose and *N*-acetyl-D-galactosamine;

lectin III, *N*-acetyl-D-galactosamine

Tyramine: A sympathomimetic agent with indirect adrenergic activity.

Viscotoxin: Toxic to heart muscle and cytotoxic. It inhibits DNA synthesis.

Viscumin: Cytotoxic. It inhibits protein synthesis in cell freesystemss. Toxicity may be prevented by pretreatment with galactose lastolose and calcium ionophoreA 23187..

重要文献

1) G. Samuelsson *et al.*: *Acta Chem., Scand.*, **25**, 2048 (1971)

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook: class 2b (not to be used during pregnancy), 2d (may counteract the effectiveness of birth control pills) Contraindicated in protein hypersensitivity and chronic progressive infections such as tuberculosis and AIDS; do not exceed recommended dose. (P.123)

The Complete German Commission E Monographs: P. 171, P. 395, P. 397

評価: A

アルカロイド成分並びに心筋系に対する毒性を示す viscotoxin を含有し、Botanical Safety Handbook において様々な禁忌が報告されており、医薬品としての使用実態があることから安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。

名称 セキイ

他名等 ヒトツバ、石韋

部位等 全草

備考

学名 (科名) *Pyrrhosia lingua* Farw. ウラボシ科 (Polypodiaceae) ヒトツバ属

基原植物和名等 ヒトツバ

医薬品としての使用実態があるか No

葉を煎じて利尿、腎臓病に服用される。また、腫れ、むくみ、脚気などにも使用される (牧野・伝承)。

現在日本ではほとんど用いられない。

毒性データ (LD₅₀ 等) RTECS 未収録。同属も LD₅₀ > 1 g/kg bw

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

hopane triterpinoids (diplotene など), dammarane triterpinoids, β -sitosterol, flavonoids

牧野ではアントラキノン含有の記載があるが、出典不明である。

diplotene の毒性データ無し。

主要な生理活性

配糖体には利尿防腐作用があり、消炎、止血、利尿、解毒に効果があるとされる。淋疾、腎炎、結膜炎、口腔炎、咯血、扁桃腺炎、百日咳などに応用されている (牧野)。

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑 (p693)

Yamashita, H. *et al.*, *Phytochemistry* **49**, 2461-2466 (1998).

Yamashita, H. *et al.*, *Chem. Pharm. Bull.* **46**, 730-732 (1998).

Masuda, K. *et al.*, *Chem. Pharm. Bull.* **45**, 590-594 (1997).

Hikino, H. *et al.*, *Chem. Pharm. Bull.* **11**, 409-410 (1963).

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価：E

わが国における使用実態はほとんどない。毒性も低く、食薬区分の見直し対象になり得ると考えられる。

名称 セキサン

他名等 ヒガンバナ/マンジュシャゲ、石蒜

部位等 鱗茎

備考

学名(科名) *Lycoris radiata* Herb. ヒガンバナ科 (Amaryllidaceae) ヒガンバナ属

基原植物和名等 ヒガンバナ/マンジュシャゲ

医薬品としての使用実態があるか Yes

体のむくみを除くにはガーゼなどで包んで足の土踏まずに塗る。肩こりにも同様に用いる。乳房炎や乳腺炎の初期にも同様に患部に湿布する。

毒性データ (LD50 等) RTECS 未収録。

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

含む場合その化合物は

Amaryllidaceae alkaloids: hippeastrine, lycorenine (LD₅₀ = 765 mg/kg bw, mouse, oral), lycoricidine, lycorine (LD₅₀ = 10.7 g/kg bw, mouse, oral; 145 mg/kg bw, mouse, subcutaneous), pretazettine (LD₅₀ = 47 mg/kg bw, rat, i.v.), homolycorine, lycoramine (LD₂₀ = 1.01 mg/kg bw, rat, i.p.), tazettine (LD₅₀ = 320 mg/kg bw, mouse, i.p.), galanthamine (LD₅₀ of hydrobromide = 18.7 mg/kg bw, mouse, oral; LD₅₀ = 10 mg/kg bw, mouse, i.p.) (以上アルカロイド) を含み、有毒。吐き気を催す。

lycoramine は鱗茎中に 0.017-0.049%、galanthamine は 0.011-0.021%含まれている。

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの(類似化合物)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

7,3'-dihydroxy-4'-methoxy-8-methylflavan

主要な生理活性

アルカロイドに鎮痛、降圧、催吐、去痰などの作用。リコリンは市販のヒドロコリン(アメーバ赤痢の薬)や吐剤、去痰薬などの製造原料。

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑 (p644), Phytochemical dictionary 2nd Edition

Takagi, S. *et al.*, *Chem. Pharm. Bull.*, **16**, 1121-1123 (1968) Determination of lycoramine and galanthamine with GLC.

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価: A

含量は低いものの、毒薬相当の lycoramine、galanthamine やその他のヒガンバナアルカロイドを含む。

名称 セキショウコン

他名等 セキショウ、石菖根

部位等 根茎

備考 茎は「非医」

学名(科名) *Acorus gramineus* Soland. サトイモ科 (Araceae) ショウブ属

基原植物和名等 セキショウ

医薬品としての使用実態があるか Yes 局外生規

鎮痛、沈静、健胃、活血薬などとして煎液を服用する。

和漢薬考収載の独活湯に菖蒲の名称で配合されているが、一般用漢方 210 処方中の独活湯には配合されていない。

毒性データ (LD50 等) Extract: LD₅₀ = 540 g/kg bw (mouse, oral), 5560 mg/kg bw (mouse, intravenous)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの(類似化合物)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

精油成分として asarone を大量に(精油の 99%, 全体の 0.08-0.3%) 含み、その 80%以上が β -asarone (Z-asarone)である。ほかに α -asarone (E-asarone)、elemicine, β -caryophyllene, α -caryophyllene、 γ -asarone (sekishone)、*p*-methoxycinnamaldehyde の含有が知られている。

主要な生理活性

鎮静作用、消化液分泌促進、胃腸異常発酵抑制、平滑筋弛緩、抗真菌

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑 (p603) , Phytochemical dictionary 2nd Edition

Sugimoto, N. *et al.*, *Natural Medicines* **51**, 259-264 (1997): 精油の分析

Sugimoto, N. *et al.*, *Natural Medicines* **51**, 316-324 (1997): 精油の分析

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook: Class 2b, 3. カナダでは asarone が含まれていないものをアルコール飲料に用いる他は食品への使用を認めていない。発がん性が指摘されている β -asarone を 0.08-0.3%含む。

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価 : A

発がん性が指摘されている β -asarone を含む。含量は少ないが、カナダでは食品への使用を認めていない。

名称 セキナンヨウ (1)

他名等 オオカナメモチ/シャクナゲ、石南葉

部位等 葉

備考

学名 (科名) *Photinia serrulata* Lindl.バラ科 (Rosaceae)

基原植物和名等 オオカナメモチ

医薬品としての使用実態があるか Yes

鎮痛、利尿、強壯薬として、リウマチ、痛風、腎臓病などに応用する。

毒性データ (LD50 等) RTECS 未収録。同属で最も低いものが LD₅₀ = 464 mg/kg bw

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

青酸配糖体を含むとの報告がある。

主要な生理活性

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑 (p714)

Herissey, *Bull. soc. chim.* **11**, 680-683 (1912) Presence of Amygdonitrile Glucoside in *Photinia serrulata* Lindl.

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価 : A

オオカナメモチとシャクナゲの仲間が使用されるが、シャクナゲの仲間で使用され得る植物種のうち 2 種に毒性の強い grayanotoxin I の含有が知られている。

名称 セキナンヨウ (2)

他名等 オオカナメモチ/シャクナゲ、石南葉

部位等 葉

備考

学名 (科名) *Rhododendron degronianum* Carr.など ツツジ科 (Ericaceae) ツツジ属

基原植物和名等 シャクナゲ<石南花>、アズマシャクナゲ

石南葉は中国ではバラ科のオオカナメモチの葉を指すが、日本では石南葉としてツクシシャクナゲ *R. metternichii* Sieb. et Zucc.のほか、シャクナゲ *R. metternichii* Sieb. et Zucc. var. *pentamerum* Maxim、ホンシヤクナゲ *R. metternichii* Sieb. et Zucc. var. *hondense* Nakai、ハクサンシヤクナゲ *R. brachycarpum* D. Donなどが用いられる。

医薬品としての使用実態があるか Yes

鎮痛、利尿、強壮薬として、リウマチ、痛風、腎臓病などに応用する。

毒性データ (LD50 等) RTECS 未収録。同属で最も低いのは Ext. of *R. thomsonii*: LD₅₀ = 56.2 mg/kg bw (mouse, i.p.)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

Rhododendron sp.に含有されるジテルペンである grayanotoxin I (LD₅₀ = 1.31 mg/kg bw, mouse, i.p.)は痙攣性の有毒成分で、中毒量では悪心、嘔吐、痙攣、手足の麻痺、呼吸困難などが起こり、こん睡状態に陥り死に至る。服用量に注意を要する。

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

triterpenes: ursolic acid, oleanolic acid

flavonoids: asebogenin, farrerol, phloridzin, taxifolin, azaletin

phenolics: *o*-pyrocatechuic acid, rhododendrin

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑 (p380, 381) , Phytochemical dictionary 2nd Edition

Kurihara, T. et al., *Yakugaku Zashi*, **96**, 1407 (1976).: grayanotoxin I in leaves of *R. degronianum*.

Ohue, H. et al., *Yakugaku Zashi*, **94**, 756 (1974).: grayanotoxin I and III in leaves of *R. metternichii* var. *hondoense*.

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価: A

オオカナメモチとシャクナゲの仲間が使用されるが、シャクナゲの仲間で使用され得る植物種のうち2種に毒性の強い grayanotoxin I の含有が知られている。

名称 セッコク

他名等 ホンセッコク、石斛

部位等 茎

備考

学名 (科名) *Dendrobium officinale* K. Kimura et Migo (ホンセッコク) など ラン科 (Orchidaceae)

セッコク属

基原植物和名等

石斛はセッコク属を基原とするが、その種類は非常に多い。主なものはコウキセッコク *Dendrobium nobile* Lindl.、セッコク *D. moniliforme* Sw.、ホンセッコク *D. officinale* K. Kimura et Migo、サクラセッコク *D. linawinum* Reichb. f.などである。CP2000では *D. loddigesii* Rolfe., *D. fimbriatum* Hook. var. *oculatum* Hook., *D. chrysanthum* Wall., *D. candidum* Wall. ex Lindl., *D. nobile* Lindl.である。また、日本産石斛はセッコクおよびキバナセッコク *D. tosaense* Makino とされる。このように多くの種が使用される可能性があるため、他名等の項目に *Dendrobium* 属を入れるべきと考えられる。

医薬品としての使用実態があるか Yes

解熱、消炎、強壯、健胃薬として熱病による口渇、食欲不振、胃腸障害などに用いられる。小城製薬が輸入承認を得て取り扱っている。

毒性データ (LD50 等) RTECS 未収録。同属も LD₅₀ > 1 g/kg bw

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

セッコク属の成分としてセスキテルペンアルカロイドの dendrobine (0.33~0.5%)、dendramine、nobiline(=nobilonine)、dendroxine、dendrine、6-hydroxydendroxine、N-methyldendrobine が知られている。dendrobine はウサギ、モルモットに対して中程度の過血糖を起こし、大量では心臓の収縮力を低下させ、血圧を降下し、呼吸を抑制する。

dendrobine のみ毒性データが存在する。LDLo = 17 mg/kg bw (rabbit, i.v.)

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

セスキテルペンの nobilomethylene

主要な生理活性

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑 (p668-670) , Phytochemical dictionary 2nd Edition

Suzuki, H. *et al.*, 薬誌, **52**, 996 (1932); **52**, 1049 (1932); **54**, 801 (1934): 漢薬金石斛から dendrobine の単離

Onaka, T. *et al.*, *Chem. Pharm. Bull.*, **12**, 506 (1964): dendrobine の構造

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook *D. nobile* Lindl.の全草は Class 1 であるが、大量に服用すると心臓と肺に妨害作用を示し、さらに痙攣を引き起こす場合がある。これらは dendrobine に起因すると考えられる。

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価：A

CP2004 に収載され、日本でも使用実態がある。大量に服用すると毒性を示すアルカロイド、dendrobine を含有するため、専ら医薬品としておくことが適当である。

名称 セネガ

他名等 ヒロハセネガ

部位等 根

備考

学名(科名) *Polygala senega* L. (セネガ), *Polygala senega* L. var. *latifolia* Torrey et Gray (ヒロハセネガ)

ヒメハギ科 (Polygalaceae) ヒメハギ属

基原植物和名等 セネガ、ヒロハセネガ

日本で栽培されているものはヒロハセネガで、国内需要をほぼ満たすほか、ヨーロッパにも輸出されている。アメリカ産のものはセネガである。ヨーロッパでは *P. amara* L. を代用品として用いることがある。

医薬品としての使用実態があるか Yes 局方

強い去痰、鎮咳作用があるとされ、気管支炎、気管支喘息、肺炎時の気道内の去痰に用いる。煎じて飲む。また、セネガシロップの製造に用いられる。

毒性データ (LD50 等) RTECS 未収録。

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの(類似化合物)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

サポニン 6~10%:セネガサポニンと総称される senegin I (0.37%), II (2.4%), III (2.4%), IV (1.1%) senegin I は構造不詳。いずれも毒性データ無し。

糖類 5.5~7.5%: glucose, fructose, arabinose, sucrose, raffinose, stachyose, polygalitol (1,5-anhydro-D-sorbitol)

脂肪油 5~8%

精油 0.3%: methyl salicylate

ステロール: α -spinasterol

主要な生理活性

セネガサポニンに去痰作用がある。

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑 (p264, 265), Phytochemical dictionary 2nd Edition

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 2b, 2d (胃炎と胃潰瘍に禁忌あり。長期間の服用は避ける)

The Complete German Commission E Monographs p203. 長期間の服用で胃腸に炎症。

評価: A

局方収載の重要な医薬品であり、また、長期間服用すると胃腸に炎症を起こすことが知られているため、食用には向かず、専ら医薬品としておくべきである。

名称 センキュウ

他名等 川芎

部位等 根茎

備考 葉は「非医」

学名(科名) *Cnidium officinale* Makino セリ科 (Umbelliferae) ハマゼリ属

基原植物和名等 センキュウ

医薬品としての使用実態があるか Yes 局方

補血、強壯、鎮静、鎮痛薬として、貧血症、月経不順、冷え性、生理痛などに用いられ、各種の漢方処方に配合される。

210 処方中の配合処方：35 処方（胃風湯、温経湯、温清飲、応鐘散、葛根湯加川芎辛夷など）

毒性データ (LD50 等) RTECS 未収録。

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

精油 1~2% : cnidilide, neocnidilide, ligustilide, butylphtalide, butylenephtalide, sedanoic acid lactone などのフタリド類を含む。いずれも毒性データ無し。

糖類 : glucose, fructose, sucrose

主要な生理活性

精油に局所刺激作用、中枢抑制作用、水エキスには自発運動抑制、体温降下作用、ligustilide, butylenephtalide には鎮痙作用のあることが認められている。

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑 (p358)

その他注意すべき点

中国産川芎は *Ligusticum wallichii* Franch の根茎。

Botanical Safety Handbook 無記載（同属のオカゼリ *C. monnieri* は Class 1）

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価 : B

毒性は知られていないが、局方に収載される重要な生薬であり、また多岐の処方に使用されている。

名称 ゼンコ (1)

他名等 前胡

部位等 根

備考

学名 (科名) *Peucedanum praeruptorum* Dunn セリ科 (Umbelliferae) カワラボウフウ属

基原植物和名等 和名なし

医薬品としての使用実態があるか Yes 局外生規 (両種とも規定)

白花前胡、官前胡

前胡は解熱、鎮咳、去痰薬として感冒時の咳嗽、吐き気、熱があつて頭痛がするもの、粘ちゅうな痰、喘息などに用いられる。

210 処方中の配合処方：3 処方 (荊防敗毒散、参蘇飲、蘇子降気湯)

毒性データ (LD50等) RTECS未収録。同属の*P. dhanal*は LD₅₀ = 48 mg/kg bw (mouse, i.p.)だが、"extract excluding roots"

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

クマリン類：praeruptorin A, B, C, D, E, nodakenin。いずれも毒性データ無し。

糖類：mannitol

主要な生理活性

前胡には抗滲出作用がある。また前胡の煎剤を慢性胃炎患者に投与し、胃液の臨床検査を行った結果、胃炎に対して改善作用が見られるほか、去痰、抗炎症作用が認められた。

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑 (p369)

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価：B

毒性は知られていないが、局外生規に収載され、漢方 210 処方中にも配合される重要な生薬である。